

回胴倒錯者

— PACHISLO FREAK —

はじめに
このたびの大震災で被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。復興がいち早く進むことを心より願っております。

啓

2005年の秋、とうとうそれは発売された。回胴界を180度転換するものだ。日に日に現実味を帯びてきていたそれがいよいよ姿を現し始めたのだ。5号機の登場である。

発売前からその噂にプラスのものはなく、この業界には厳しいものになるとの試算ばかりが目についた。現在の4号機ストック機のコイン単価は4円を上回っており、おとなしいタイプでも3円はある。これが5号機になると、なんと2円を下回る物も多く、それはまさに半額といつてよい。ことの深刻さは容易に想像できる。売り上げが半減するのだ。かといって、還元率も半減させるわけにもいかない。こういった状況が今まさに目前まで迫ってきている。

それぞれのホールは検定の長い台をこぞって集め、その5号機時代の突入を少しでも遅らせようと必死だった。台の営業マンは台の特徴や面白さを説明することなく、4号機であることとその検定の長さを売りに自慢げに話していた。そんな販売スタイルでも台は飛ぶように売れていった。その中でも、検定が長いだ



押忍！番長（大館技研／2005年7月）
吉宗の後継機。吉宗ほどの極悪性はない。機械割がそう高くないのにヒットしたのはシステムが発達した証

けでなく面白さや人気を兼ね備えた機種があった。それが「押忍！番長」である。発売されてから人気はうなぎ上りで、そのパネルの種類も5種類にのぼる。検定が長いという助けもあったのだろうが、販売台数は歴代3位まで上り詰めたと聞く。個人的にはあまり好きではなかったが、それほど打ち込んだ機種ではなかったが、5号機到来をギリギリまで防いだ大きな砦だったことは間違いない。全国のホールが検定切れを迎える4号機の代わりにこぞってこの機種を投入した。増台につぐ増台でこの機種の価格も跳ね上がっていったが、余力のないホール経営者たちも、この最後の砦に起死回生を期待し、ギリギリの中で台費用を捻出していた。

異色

当ホールは真つ先に新時代の門を開けてみた。5号機投入である。業界初の5号機は今でも進化を遂げて発売され続けている「エヴァンゲリオン」だ。かな

り強烈なインパクトである。もちろん当ホールもこのインパクトがあったから投入したのだ。噂の5号機、スロットの歴史の中でも大革命と言わざるを得ない。マイナスの噂しかなかったが、気になって仕方がない。閉店後に設置され導入された台をいち早く打つてみる。そこには店長もおり、並んで座る。

私「すごいコイン持ちですね。噂通り50ゲームは回つてますよ」

店「だな。」

私「お？なんすかコレ、チェリーなのに払い出しがないですよ」

店「ボーナスじゃねえのか？」

私「あ、どうやらチェリーは右リールで払い出しがあるみたいですよ……」

店「お、なんか怪しいぞ！これ入ったんじゃねえの？」

私「おお、それは間違いないでしょう、さつそく揃えましょう」

店「なんだこれ、揃わんぞ。」

私「しかし液晶には7が並んでいるからBIGですよ」

店「もしかして、これって液晶に出た絵柄しか並ばないんじゃないのか？」

私「え、そうなんですか？じゃために液晶に出ている青7を狙ってみましょう」

店「あ、並んだ。ヒヤハハ！なんだこれ」

私「枚数のカウントが出ていますね、噂通り規定枚数以上の払い出しで終了なんです」

店「ぜんぜんおもしろくねえな」

私「BIG中はちよつと酷いですよね」

店「続きはお前がやって、帰るわ」

うわさは本当だった……。個人的には嫌いではないが、千円で50ゲームも回るためボーナス確率がかなり悪い、そこが嫌いだけない。昔のノーマルAタイプっぽい趣もあり、リール制御や配列も悪くないのにもつたいない。しかしこれだけだからだされると、間違いなく売り上げは激減する。今の4号機に慣れてしまっているお客さんには全く物足りないだろう。そうするとスロット離れも加速する。さらに売り上げは落ち込み、体力のないホールは確実に廃業に追い込まれる。その数が多大になるのはもはや避けられまい。当ホールもどちらかと言えば体力のない部類に入る、いや、それ以前

に厳しい現実がある、当ホールはスロット専門店なのだ……

次回予告 ◆

とうとう新時代の幕開けである。じわ

◆ 3月11日

私は実家の手伝いをしていて、そこへ親父が帰って来て、「津波警報が出てるぞ」この一言でそれに気付いた。テレビでそれを確認する。そこにはまるで映画のような映像が繰り返し流されていた。築きあげたものがいとも簡単に流されていた。この時まだ死者は数百人。阪神大震災が脳裏をよぎる。高校生だった当時、学校に向けて出発したのが午前7時半、下校し、帰宅したのが午後5時過ぎ。この間に死者数は膨れ上がっており、それは日を追うごとに増え続けた。

◆ 3月17日

すでに死者行方不明者は現時点で合計1万3千人を超えている。嫌な予感はその想像を遥かに超えていた。連日、その捜索と避難者達の状況が報道されている。それでもそこには時折、子供たちの笑顔も見え始めた。この過酷な状況下でそれは皆の救いであり、それを未来への予兆と私は思いたい。

国際的な援助の申し入れは100か国を超え、励ましの言葉も世界中から鳴り止まない。さらには日本人の秩序を守る精神と、犠牲の精神が世界の感嘆や称賛

を呼んでいる。

世界の国の数は200弱と聞く、その半数以上は「日本のためになるならば」、そう考えてくれているのだ。先人たちが長い時間をかけて得たこの信用を、恥ずかしながら私は知らなかった。

世界を代表する経済大国は、国土は小さいけれど、やはり大国だった。地球が引き起こしたこの試練はあまりに過酷なものだけど、この大国は乗り切るだろう。新たな未来は、さらに成長したことになるに違いない。

◆ もつつの3月17日

震災の前日、それは公立高校の入試日だった。昨年私が担当した生徒であるMさんも受験している。入試の数日前、Mさんの現在の担当教師から「MさんからA氏への手紙を預かりました」との連絡が入った。都合が合わずにすぐには受け取ることができなかったが、当然合格すると思つていた私は「受験頑張ってください！」などの文面であるだろうと、安易に考え

ていた。しかし、受験翌日にその手紙を受け取った私は血の気が引いてしまった。想像とは真逆の内容だったのだ。「受験が怖い」。もうすでに受験は終わっている。その返

事を書いてても無意味だ。現在担当の先生は「数学が死んだ、終わった、自己採点もしたくない」と言っていたと私に話した。それでも私は「私は心配していません、必ず合格しています。不合格などありえませんが」そう伝えた。

仮に緊張や恐怖心でいつもの力が発揮できていなかったとしても、それを上回る努力をしていたのを知っていたからだ。

3月17日の合格発表日、担当の先生から私に連絡が入る。

「合格でした。」

「当然です。」

こう答えたのはいいけれど、本当におめでとー県内でもトップクラスの高校だ、これからもその努力する才能を大いに發揮してください。手紙に気付かなかったこと、そついう精神状態に気付かなかったこと、ごめんなさい！もしすぐにその返事を書いていたら少しはゆとりを持って受験ができたかもしれないが、ただ、次のような返事を見て、ゆとりが持てたかどうか疑問であるが……

拝啓 Mさん

私は、受験よりも注射の方が怖いと思います。

敬具

A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも副収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕を振るっている。目押しレベルはスイカの種まで直視できるほどの異常っぷり。

